

座長コメント

(1) 大井川水資源利用への影響の回避・低減に向けた取組みについて

- 有識者会議委員や静岡県から指摘のあった詳細モデルによる断層付近のトンネル湧水量等の把握については、高速長尺先進ボーリング等により得られるデータを用いて判断していく方法が具体的に説明され、それに応じた薬液注入等の対策を講じることを有識者会議として指示した。
- 断層付近の突発湧水量について、過去に大量の突発湧水が発生し、その湧水の経時変化が確認できる青函トンネルでの突発湧水量をベースとした考え方が示され、突発湧水による施工上の危険性が説明された。有識者会議からJR東海に対しては、突発湧水等の不確実性やリスクを念頭に置いた上で、静岡県や利水者に対して、わかりやすく丁寧に説明していくよう指示した。
- 地下水等の化学的成分分析については、渇水期での調査結果より、大井川中下流域の地下水については、第6回会議で議論した豊水期と同様の傾向にあることが示された。有識者会議からは、工事中、工事後も含めて、継続的にモニタリングを実施していくよう指示し、また、モニタリングの実施にあたっては、静岡県や専門家等の助言を得て適切に評価し、また定期的に公表する仕組みを関係者と調整の上で整えるよう要請した。

(2) 水資源問題に関する中間報告（案）について

- 事務局より提示された「水資源利用に関する中間報告（案）」については、次回会議に向けて、以下の方向で整

【第11回 リニア中央新幹線静岡工区 有識者会議】

理するよう指示した。

- ・ 本有識者会議が、どのような立ち位置やミッションで、どのようなデータや分析結果を用いて議論してきたのかがわかるようにする。
- ・ 科学的・工学的な観点から中下流域での水資源利用に対する影響をどのように評価するか、本有識者会議がJR東海に対して指導してきた経緯をまとめる。
- ・ トンネル掘削工法についても、本有識者会議における議論の過程が伝わるような記載にする。